

【正解又は解答例】

令和8年度 愛媛大学大学院農学研究科入学者選抜学力検査

(食料生産学専攻 食料生産経営学コース)

外国語

第 1 頁 (2 頁の内)

問 1

2020年の農林業センサスによると、水稻の作付面積において15ha以上栽培している農家数が最も多いのは北海道である。2番目に多いのが秋田県である。3番目に多いのが新潟県である。北海道や新潟県、秋田県は平野部が多く、区画も大きくしやすいことから大規模化が容易であることが考えられる。また大きい区画は大型機械の導入を可能にし、作業の効率も上がる。一方で、水田の作付面積が0.1ha未満の農家数が最も多いのは長野県である。その理由は、長野県は総面積の84%が山地で、斜面が多く平坦な土地が少ないからである。そこで長野県では斜面が多い地形的な特徴や標高が高いという特徴を活かしてブドウやリンゴのような果樹栽培が盛んである。この長野県の地形的な特徴は愛媛県の南予地域でも同じで、柑橘栽培が盛んな理由の一つである。

愛媛県内の温州みかん生産のメインの生産地は八幡浜市と宇和島市で県内生産量の75%をしめる。この理由は温暖な気候と斜面が多く太陽の光があたる面積が大きいことが温州みかんの生産量の生産条件に合致しているからである。果樹園に斜面が多く存在するということは機械化が難しく、労働条件が厳しく、生産にあたっては多くの人手が必要なことを意味する。南予地域は愛媛県での農業従事者数の多くの割合を占めている。特に温州みかんの収穫の時期である10月から12月は作業時従事する人が最も多くなる季節である。そのため、温州みかんの収穫の時期にはたくさんのアルバイトが雇用され収穫作業に従事する。しかしながら近年ではこのアルバイトの確保が難しくなっており、温州みかんの生産維持のための重要な課題となっている。このような課題を解決するためにスマート農業技術の開発も進められているが、まだ実用化には至っていない。

【正解又は解答例】

令和8年度 愛媛大学大学院農学研究科入学者選抜学力検査

(食料生産学専攻 食料生産経営学コース)

外国語

第 2 頁 (2 頁の内)

問 2

選んだ選択肢：(ア)

根拠とした英文： The Nanyo region accounts for a significant portion of Ehime's
agricultural workforce.
